松本市教育研修センターだより

No.39　令和７年6月30日

つながる・ひろがる松本の教育

６月に行われた研修は、ミドルリーダーからインクルーシブ教育の充実、個別最適な学びを実現する自由進度学習、地域と連携した探究的な学習まで、幅広いテーマで展開しました。教科指導や学級経営、校内研修の充実に焦点を当てた実践的な内容にも、多くの先生方が参加してくださり、「明日から使える」「子どもの見方が変わった」など、前向きなフィードバックをたくさんいただきました。

今回は、単元内自由進度学習を進める筑摩小学校の実践、四賀をフィールドとしたまつもと学、校内の研修のあり方を考える校内研修づくりワークショップについて紹介します。

実践校に学ぶ“単元内自由進度学習”（6 月 24 日実施）

令和５年、６年度松本市リーディングスクール校・今年度はアソシエイト校として取組んできた筑摩小学校の全面的な協力のもと、「実践校に学ぶ単元内自由進度学習」研修を実施しました。24 名の参加先生方は、「これから単元内自由進度学習に取組みたいが、どのように始めていったらよいか」「低学年の単元内自由進度学習はどのように行ったらよいか」「中学校で取り入れるにはどうしたらよいか」など、それぞれの課題をもって参加されました。

参観授業は、４年生（国語「お礼の気持ちを伝えよう」算数「小数」：２教科同時公開）と６年生（算数「分数÷分数」社会「天皇中心の国づくり」図工「くるくるクランク」：３教科同時公開）の２学年で実施しました。どちらの学年も授業が始まると、子どもたちは廊下や近くの教室など思い思いの場所に行き、自分のペースで学習内容を選択し進めていきました。わからない所があると近くの友と相談したり、タブレットを使い調べたりして追究していく姿が印象的でした。

授業後の座談会は、筑摩小の全先生方も参加し、６グループに分かれ、「子どもの姿から学んだこと」や「単元内自由進度学習の取組での課題や感じていること」などについて、自分の思いを交流し合いました。各グループに配置された筑摩小の先生方からは、学年で連携し教材づくりを行い繰り返し実践を積み重ねていく重要性や、「単元内自由進度学習により子どもたちについた力（やる気、意欲、粘り強さなどの非認知能力）」などについて、子どもの実際の姿を通して語られました。参加された多くの先生方にとって、「自校で単元内自由進度学習を進めていく」背中を後押しする研修会になりました。

○自由進度学習の具体的な準備品や計画表など、実践的な様子を拝見することができ、大変勉強になりました。「明日から、実践してみよう！」と思える研修会に参加できることは、とても有意義だなと感じますし、職場の皆さんともすぐに共有して挑戦してみたいなと感じます。また、複数教科を抱き合わせた形での自由進度学習は初めて拝見しましたので、こちらもとても刺激的でした。…

○筑摩小学校の先生方の２年に渡る実践の努力から、本日のような互いに学び合い自ら学習を進めていく子供たちの姿が出来上がっていることをひしひしと感じました。…そのような苦しい状況でも、新たな一歩を果敢に踏み出されている学校、先生方がたくさんいらっしゃることを授業後の座談会で知りました。今日教えていただいたたくさんの先生方の実践やノウハウ（どのような単元が向いているか、教師は複数必要、子供が見通せる到達目標など）を参考に失敗を恐れず自分も自由進度学習をやってみたいと思います。

まつもと学講座Ⅲ四賀フィールドワーク（6 月 13 日実施）

岩石等地域素材の宝庫である四賀地域において、教文科学博物館長の一ノ瀬先生を講師に迎え、実物に触れて学ぶ地質学研修が実施されました。

四賀地域は逆断層や四賀キャニオンの地層、石炭層の痕跡など、地質学的に貴重な観察ポイントを有しています。参加者は地層の上に立ち、側面を観察できる全国的にも珍しい環境で、地層の成り立ちについて考察しました。また、クジラ化石の観察や貝の化石の採取を通じて、この地域が過去に海底であったことを実証的に理解する機会となりました。

理科だけでなく、英語や社会など様々な教科担当の先生方が参加し、各自の教科指導や総合的な学習の時間への活用方法について議論が交わされました。多角的な視点からの学びが展開され、教科の枠を超えた指導力向上につながる研修内容でした。

○逆断層は断層を立体的に見ることができ、地層の広がりを見ることができ感動しました。また、四賀キャニオンはより専門的な視点で見られたため、リップルマークや巣跡など新しい発見ができ、時間を忘れるほど夢中になりました。昨年度できずに後悔していた地域素材の活用を今年度こそは実践し、今回の研修で私が感じた感動を生徒にも感じてほしいと改めて思いました。

○子どもが実際に触って、見て、体験ができる授業の教材づくりに非常によいフィールドワークでした。特に、松本市内（地域）の素材を使うことで、より子供たちの興味・関心を引き出せるのではないかと思います。 教科書・動画等を見ることでも知識は得られますが、「体験する」に勝るものはありません。

○中学では、他教科の学習内容を知る機会が少なく、本研修はありがたかったです。今回、小中の理科で学んでいる内容を知ることで、社会科の単元計画を考え直す必要性を感じました。教科を横断して教員の幅を広げるためにも、大切だと思います。

校内研修を創るワークショップ（6 月 17 日実施）

「校内研修を創るワークショップ」を開催しました。この研修の目的は、校内で研修を設計する際にどんなことを大切にしたらいいのかということを、体験的に学び、気づきをメンバーで共有し、校内で実践していくことです。

研修のオープニングに行われるアイスブレイクの意味について考えたり、中盤で行ったラウンドスタディでは、人が混ざり合うことで生まれる新らたなアイディアに気づいたり、研修の枠組みについて考えることができました。ファシリテーターの役割や場づくりの重要性への関心が高まり、これまでの研修のあり方を改めて問い直している様子もうかがえました。

研修終了後には「今日ここに来られてよかった」という声が聞かれ、参加型・対話型の研修スタイルが教員の学びを深める効果的な方法であることが実感できる機会となりました。

○みんなが楽しく前向きに参加できる研修のためには、講師として示すもの（目的・学びの契約など）や準備すること（参加者の把握・スケジュールやルール管理など）が大切だと感じました。

○今年度、リーディングと、この研修に参加していることで、松本市内に同じように頑張っている仲間がいることを体感でき、自分の学校はもちろんですが、つながって学び合うことで、子どもたちの学びの充実の姿に一歩近づけているように感じます。

○今回の研修は、職員研修のみならず普段の学級づくりにも生かしていけそうだと感じました。シャベリカや、ラウンドスタディは、学級でも取り入れてみたいですし、いつか自分自身が校内研修を、、、という立場になったとき、ぜひ生かしていきたいです。